

# イノシシ捕獲に係る取組状況について（速報）

## 1 野生イノシシの捕獲頭数（速報）の推移（資料2-1、表1）

2022年度8月末時点の野生イノシシの捕獲頭数は、豊橋市55頭（前年度同時期：30頭）、田原市85頭（同：35頭）となっている。

愛知県が実施している指定管理鳥獣捕獲等事業での実績を除いた田原市の有害捕獲による捕獲頭数は、51頭（同：27頭）となっている。

年間の捕獲頭数が直近5年間で最も少なかった前年度と比べ、いずれも増加している。

地区ごとの捕獲頭数について、2021年度と比較して、豊橋市では、他地区のような捕獲頭数の減少が見られていなかった南部に加え、北部でも増加している。田原市については、昨年度大きく捕獲頭数が減少した大山山塊や宇津江地区の捕獲頭数が増加している。

表1 野生イノシシの捕獲頭数の経年推移（狩猟による捕獲を除く）（頭）

| 市／年度 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 <sup>※</sup> | 2022 <sup>※※</sup> |
|------|------|------|------|------|-------------------|--------------------|
| 豊橋市  | 210  | 251  | 220  | 160  | 113               | 55                 |
| 田原市  | 275  | 271  | 492  | 270  | 122               | 85                 |
| 計    | 485  | 522  | 712  | 430  | 235               | 140                |

※速報値

※※8月末時点の速報値

## 2 捕獲イノシシの年齢査定の結果（資料2-2）

捕獲された野生イノシシの歯列による年齢査定の結果、成獣の割合は8月末時点で、約3～5割程度で、昨年度の同時期と概ね同じ割合となっている。

## 3 捕獲努力量の把握の試みについて

前年度に捕獲実績を挙げている有害捕獲の従事者を対象に、イノシシ用のわなの見回りの実施状況を把握するため、調査期間を2022年4月から6月までに設定し、試行的にアンケートを実施した。

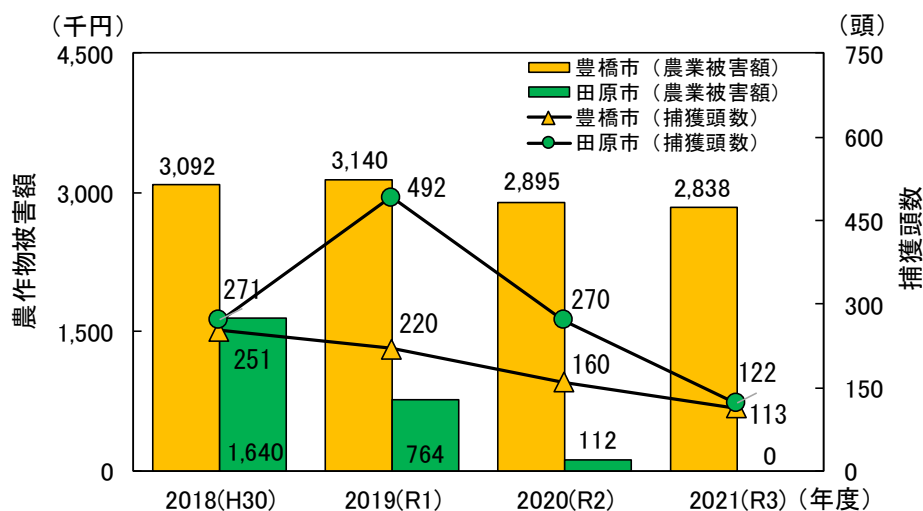
わなの見回りの状況を把握できた47基（調査対象82基）のわなのうち、見回りが毎日実施されていたものは2～3割程度であり、特にくくりわなについては、状況を把握できた7基のいずれも、使用されていないなど、捕獲努力量の想定値（毎日稼働していたと仮定）との乖離が見られた。

今後は、今回の試行結果を踏まえ、アンケートの方法等を関係機関で検討する。

#### 4 農作物被害額について

イノシシによる農業被害額（速報値）について、豊橋市については、概ね横ばい傾向にある。一方で、田原市については年々減少しており、2021年度は被害の報告がなかった。

イノシシによる農業被害額及び捕獲頭数の推移



#### 5 その他

2021年10月に豊田市で、当時県内では約1年ぶりに野生イノシシの豚熱陽性個体が確認されて以降、岡崎市、瀬戸市も含め、2022年8月末時点で計12件確認されている。

県全体の年間の野生イノシシの捕獲頭数について、2018年度以降年々減少していたが、2021年度（速報値）は2020年度と比べて増加した。

また、地域ごとに見ても、渥美半島地区を含む東三河地域のほか、尾張地域、西三河地域、新城設楽地域のいずれも2022年度は2021年度と比べ増加しており、生息頭数が増加し、野生イノシシによる豚熱ウイルスの拡散リスク増加が懸念される。